

大阪市立市岡東中学校

元気アップ便り

元気アップコーディネーター 千葉清二

こんにちは。弥生、3月。戸外はまだ寒い中、窓から入る陽光のやさしさに春の到来を感じる今日この頃ですね。

卒業式が近づきました。「真砂^{まさご}なす 数なき星の その中に 吾^{われ}に向かひて 光る星あり」この句切れなしの短歌は、病床で起き上がることもままならない正岡子規の作ですが、私の大好きな短歌の一つです。解釈は読む人によって異なりますが、星の数のようにたくさんの星の中でも、必ず私の方に向かって光り輝いている星があるという意味でしょうか。何か困難なことがあっても、必ず明日への希望が見い出せるということと思ひ勇気が湧いてきます。「吾^{われ}に向かひて光る星」は何を表すのか私にはよくわかりませんが、病床にあってもまだ創作活動を続け、研ぎ澄まされた感性に驚嘆します。

もう一つ卒業生のみなさんへのはなむけの言葉として「なせば成る なさねば成らぬ 何事も成らぬは人の なさぬなりけり」を贈ります。これは教科書にも掲載されたと思いますが、江戸時代中期の米沢藩（山形県）で政治改革行つた上杉鷹山^{とうざん}の言葉です。17歳で藩主となった鷹山は、当時20万両もの借金を返済するため、自ら先頭となり改革に臨みました。まず自ら生活費を7分の1に削減し、一汁一菜の粗食、着物は木綿とします。自ら田を耕し、農民と直接交流もしました。夕立で困っていた農夫のおばあさんが傘^{かさ}を借りたらなんとお殿様だったという記録も載っています。人材育成をはかり、藩校興讓館^{こうじょう}を再興し、農民への教育の結果、皆が藩を支える一員であるという意識が芽生えたことで、改革が加速していきます。植樹する木の苗の無料配布や、城の堀に鯉を養殖して飢饉^{ききん}に備えたりして、改革を推進しました。

コロナやウクライナなど世界中が困難な世の中ですが、上記のように「全人類が地球を支える一員である」という意識をもって、早く平和と安全な世の中になってほしいですね。

2年生のみなさんへ

元気アップ学習会では、学年末テスト対策に続き、春休み特訓を実施します。「先んずれば人を制す」のことばもありますが、3年生に向けての学習会を実施します。今からでも「よし参加しよう」と思っている人は、今からでも構いませんので申し込みをしてください。